



にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

【上越市市民生活部生活環境課】

全市クリーン活動の紹介

上越市は新潟県の南西部に位置する人口 21 万人の市です。

上越市では、ごみのない美しいまちづくりを推進するため、平成 13 年度から町内会や企業、NPO 団体等の参加をいただき、春・夏・秋の年 3 回、『全市クリーン活動』を実施し、市内のポイ捨てごみや散乱ごみの回収に取り組んでいます。

平成 18 年度の全市クリーン活動では、年間で延べ 51,700 人の参加の下、108 トンのごみを回収しました。

約 40km の長大な海岸線を有する本市においては、漂着ごみやポイ捨てごみによる海岸環境の悪化が懸案となっていることから、このうち 10,300 人が海岸や海浜公園の清掃に参加しました。



新潟県上越市

平成 19 年度の夏のクリーン活動

平成 19 年度は、海水浴シーズン前の 7 月 8 日(日)に夏の全市クリーン活動を実施し、約 13,500 人の市民参加の下、早朝から直江津海岸や船見公園等、市内各所の清掃活動を行いました。

直江津海岸の清掃の参加者は、対岸諸国から漂着したプラスチック系のごみや空き缶、ペットボトル等を次々に回収し、回収ごみを市のごみ減量キャラクター「リサちゃん」の回収袋や、「トキめき新潟国体」キャラクターの「トッキッキ」の回収袋に詰めていきました。また、大人数で力を合わせて、大型の流木を砂浜から引き上げ、集積所に運んでいる光景も見受けられました。

参加者からは「年々、プラスチック系ごみや流木の漂着が増加している。」「大勢の海水浴から喜んでいただくために毎年参加したい。」といった声が聞かれました。

上越の海を守って今後も、市民一丸となって、地域環境の保全美化に取り組んでまいります。



夏の全市クリーン活動



毎回、子供たちも参加しています



リサちゃんとトッキッキ

【新潟県糸魚川市】

糸魚川市は新潟県の西南端に位置し、西は富山県、南は長野県と接しています。平成 17 年 3 月 19 日、糸魚川市と西頸城郡能生町、青海町が合併し、人口約 5 万人の新糸魚川市が誕生しました。

当地域には、黒姫山の一带にかけて埋蔵量 50 億トンと推定される良質な石灰石があり、その鉱物資源と姫川港を活用した化学工業とセメント製造業が主要な産業となっています。

物流の拠点である姫川港は昭和 48 年に開港、平成 9 年には重点投資流通港湾指定、平成 15 年には地方港湾としては唯一リサイクルポート(総合静脈物流拠点港)の指定を受けました。また、平成 18 年には「みなとの元気」を高めた港湾として(社)日本港湾協会から「ポート・オブ・ザ・イヤー 2005 グランプリ」に選定されました。

昭和 48 年の開港当時、年間 40 万トンであった貨物取扱量も順調に伸び、平成 16 年には過去最高となる 568 万トンを記録しています。以降 3 年連続で 550 万トンを超える貨物取り扱いがあり、岸壁等港湾施設の増強が望まれています。

みなとで開催される「ひめかわポートフェスティバル」は本年で第 13 回を数え、今年はいにくの天候のなか、セメント運搬船の一般公開、海上保安署巡視艇による体験航海、ミニ SL 乗車など様々なイベントが行われ、1,200 名を超える方々が港を訪れました。また、来年は開港 35 周年を迎えることから様々なイベントを計画しています。

これから、日本海側特有の厳しい冬を迎える当地の冬の味覚として「あんこう」があります。糸魚川沖は北アルプスの 3,000m 級の山々が一気に深い海溝へとなだれ込む急峻な地形の海で、冬の日本海の荒波に揉まれて育ったあんこうの味は格別です。迫力満点のあんこうのつるし切り、あんこう汁の販売、地元の銘酒や特産品の販売を行う「荒波あんこう祭り」が平成 20 年 1 月 20 日(日)糸魚川駅前通り周辺で開催されます。糸魚川の冬の味覚に舌鼓を打ってはいかがでしょうか。

(糸魚川荒波あんこう祭り問合せ先:糸魚川市観光協会 Tel 025-552-1742)



ひめかわポートフェスティバル
「海上保安署巡視艇の体験航海」



ひめかわポートフェスティバル
「セメント運搬船の一般公開」



糸魚川荒波あんこう祭り
「あんこうのつるし切り」

第3回魚津産業フェア「まるまるうおづ 魚津」開催！

平成19年10月20日(土)・21日(日)の2日間、魚津市内の商工業・農林水産業者が一同に集い、生鮮産品や自社商品・製品・サービスをPRする産業フェアが開催されました。

魚津産業フェア

魚津市の魅力が集結したこのイベントは市内施設の2会場で開催され、このうち「みなとオアシス魚津」の中核施設である「海の駅蜃気楼」会場では、魚津が誇る新鮮な鮮魚・塩干物の販売や魚介類をその場で食べられる海鮮鍋や浜焼きコーナーなどが設けられました。また、魚津名産の「魚津りんご」が先着者プレゼントとして来場者に配られ、県内外からの観光客で盛況な賑いとなりました。



新鮮なベニズワイガニを買い求める来場者



魚津名産の「魚津りんご」のプレゼント

「海の駅蜃気楼」会場の屋外特設会場では、警察や消防車両など働く車の展示・試乗が実施されました。パトカーや白バイでの無料記念撮影や消防ハシゴ車の試乗体験、ミニSL蒸気機関車には、子ども達に人気があり長い行列ができました。

さらに、「海と山とのコラボレーション」として「魚のさばき方教室」や「すりかま作り体験」また、地元新川地区の間伐材を利用した「丸太早切り大会」や昔なつかしい「竹馬乗り体験」など、趣向を凝らした様々な参加体験型イベントが実施されました。



うおづの魚を使ったすりかま作り体験



両刃のこぎりをを用いた丸太早切り大会



警察・消防車両の試乗

【石川県金沢市】

豪華客船「飛鳥Ⅱ」初の夜間出港



夜間出港～「飛鳥Ⅱ」を見送る住民～

足をのばし、石川県の魅力を満喫しました。

受け皿となっている金沢港振興協会などが、乗客に対して、事前に船内で石川県の観光地や観光施設を紹介したほか、郷土芸能の披露、半日コースの金沢港界限周遊や金箔貼りの体験コースの実施、「飛鳥Ⅱ」が接岸している戸水埠頭では、観光、物産ブース等を設置、午後10時の出港に際しては、約300名がペンライトで見送るなど様々



金沢港に寄港した「飛鳥Ⅱ」

郵船クルーズ(株)が運航する豪華客船「飛鳥Ⅱ」(約5万トン)が、9月30日(日)朝、金沢港に寄港しました。

客船旅行は、団塊世代の大量退職などに伴いブームとなっており、「秋の日本一周・韓国クルーズ」の一環として、韓国釜山港から定員いっぱいの約800名を乗せて午前8時に入港、今回は、金沢港振興協会の働きかけで、初めて午後10時に出港する「夜間出港」となりました。

乗客は、金沢のほか能登、加賀まで



歓迎演技「大野町雅太鼓」

なサービスを提供しました。

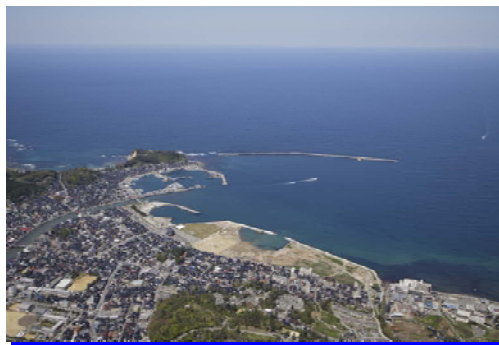
夜間出港は観光や食事などで経済効果が高く、金沢港振興協会では、港と観光地が近い利便性をアピールし、来年以降、夜間出港を増やすよう働きかけていきます。

【石川県輪島市】

輪島港マリンタウンにおける活性化

輪島港では、石川県と輪島市が共同で行う輪島港マリンタウンプロジェクトにより、既成中心市街地の約1/6におよぶ18.7ヘクタールの広大な土地を埋立てにより造成しており、湊の繁栄とともに歩んできた輪島を、現代においてさらに発展させるため、海・みなどを中心とした魅力あるまちづくりを目指しています。

竣功前の造成地では、様々な暫定施設が設置され、土地の有効利用を図る各種の取り組みが行われています。特に賑わっているのが大きな多目的芝広場で、毎年、広場をメイン会場に輪島の地物を販売・PRする「農林漁業まつり」や解禁となったばかりのカニの食イベント「カニまつり」などが開催されています。その他にも「輪島祭り」や「輪島大祭」、各種スポーツ大会も開催され一年をとおして大いに賑わっ



輪島港マリンタウン全景

～能登半島復興イベント～

ビーチライフin元気能登

9月9日(日)、七尾市の能登島マリンパーク海族公園海水浴場において、能登半島地震復興イベント「ビーチライフin元気能登」が開催されました。

新しいビーチ文化を目指す、NPO法人「日本ビーチ文化振興協会」と能登半島地震の被害を受けた、七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、志賀町、中能登町の3市4町で組織する「ビーチライフin元気能登実行委員会」を立ち上げ、共同により開催されました。

日本の女子トップアスリート3チームによるビーチバレー大会をはじめ、ビーチバレースクール、ビーサン跳ばし、ビーチドッジボールなどのイベントが開催され、子どもから大人まで約3,000人が来場し、ビーチスポーツを楽しみました。

その他、能登をPRするステージイベントや特産品の販売も行われ、新たなビーチ文化に触れることが出来ました。



ビーチバレー大会



ビーチバレースクール



ビーチフラッグス大会



ビーチドッジボール大会

国の重要文化財「三国突堤」をPR

11月17・18日に、三国サンセットビーチ駐車場で、三国温泉カニまつりが開催されました。平成8年から始まり、例年11月6日のかに漁解禁後のこの時期に開催され、3万人ほどの来場者が訪れる恒例の行事です。地元で水揚げされた新鮮なカニの販売や、具沢山のなぎさ汁の振舞い、高級ズワイガニが当たる福引抽選会など多くのイベントが開催されました。

今年は、みなとの振興を通じて地域の活性化を図る制度「みなと振興交付金」を活用して、カニまつりの開催に合わせ、国の重要文化財であり、三国港の発展の礎となった「三国突堤」をPRすべく、突堤のライトアップを行い、また突堤の設計者G. A. エッセルがオランダ人であることに因み、まつり会場内にブースを設け、オランダに関する物品販売や突堤に関する資料(パネル)展示を行うことで、オランダと三国の交流の足跡をたどるオランダフェアを共催しました。



《三国突堤について》

三国町は古来より港町として発展してきました。わけても、江戸時代、商品経済の発達に伴い和船による日本海交易が隆盛となり、三国湊は日本海側を代表する要港として繁栄の極に達します。しかし、九頭竜川が上流から運ぶ土砂が堆積し、水深を減少させ、大型船が入港できず、港の機能を著しく低下させることが、三国湊の住民の大きな悩みでした。

そこで、九頭竜川河口に新工法による突堤を築く計画が立てられ、費用は国、県、町有志の三者で負担することになりました。

豪商の内田家、小石家、津田家、中川家、橋本家、森田家が発起人となり、明治9年(1876)敦賀県が大阪土木局へ申請し、オランダ人工師G. A. エッセルが派遣されます。

エッセルは現地踏査を行い工事設計等の建議書を作成し、予算は3万9,004円と見積もられました。明治11年(1878)5月工事着工。エッセルは帰国していたために工事の監督指導は同国の熟練工師デ・レイケが携わりました。工事は打ち寄せる激しい怒涛などで困難を極めました。工事費捻出のため、未完成のまま明治13年(1880)12月に開港式を挙行し、以来明治23年まで港銭を徴収しました。一応完成を見たのは明治18年(1885)のことです。総工費は約30万円にも達していました。大工の手間代が40銭の時ですから、大変な巨額が投じられたのです。このうち、約8万円は三国の豪商たちが負担しています。三国湊の商人が意地と面目を賭けた大工事でした。

しかし、九頭竜川河口の土砂堆積問題はこれで終わらず、以後、戦前まで4期にわたって修築工事が行われました。

大正13年(1923)この突堤の先に漁師たちによって灯台が設けられました。また、昭和45年(1970)411mの新堤が継がれ、延長927mとなり、翌年新灯台が設置され、現在に至っています。

西洋式工法を今も伝える、かつ機能している突堤として大変貴重な近代化遺産です。

敦賀みなとの歴史検定を実施します！

～「みなとの賑わい創出担い手育成支援事業」を活用して～

ポーランド孤児、ユダヤ人難民の敦賀港上陸時の歴史ロマンをはじめとした敦賀港の歴史を市民や来訪者に紹介できる人材及び「人道の港 敦賀」事業の運営に参画していただける人材を育成するため、敦賀港みなと観光交流促進協議会では12月9日(日)に「敦賀みなとの歴史検定」を実施します。

この検定実施に先立って、11月3日から12月2日までの期間中に検定対策講座を開催したところ、市内外から多くの方に参加いただきました。出席率も非常に高く、皆さんの関心の高さを物語っています。



対策講座の様子

また、この講座は旧敦賀港駅舎で開催中の「人道の港 敦賀」パネル展におけるテーマ(ポーランド孤児、ユダヤ人難民)だけでなく、鉄道と敦賀港の関わりや近代以前の敦賀湊の歴史、現在の敦賀港の現地視察及び県外での現地講習(杉原千畝氏の生誕地である岐阜県八百津町、鉄道史において敦賀と深い関わりをもつ滋賀県長浜市)もプログラムに盛り込み、敦賀港の魅力を市民や来訪者に紹介するボランティアリーダーを目指す人材にとって、多彩な内容となっています。

各講座で実施したアンケートの結果や受講者の声は、今後の敦賀港みなと観光交流促進協議会運営の参考情報としても活用していきます。

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

北陸地方整備局 港湾計画課 石井

TEL 025-370-6604 FAX 025-280-8783